

書写の授業を充実させるために

1 学習指導要領の基本方針

○「生きる力」＝教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力

三つの柱	ア 何を理解しているか、何ができるか (生きて働く「知識・技能」の習得)
	イ 理解していること・できることをどう使うか (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
	ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

○目指す資質・能力を育むため、「主体的学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点での授業改善

2 国語科として

(1) 目標及び内容の構成

①目標

国語科で育成を目指す資質・能力＝国語で正確に理解し表現する資質・能力の育成

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」の三つの柱で整理

②内容

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

→「知識及び技能」および「思考力、判断力、表現力等」に構成

〔知識及び技能〕

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

(2)情報の扱い方に関する事項

〔3)我が国の言語文化に関する事項〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

A話すこと・聞くこと

B書くこと

C読むこと

(2) 学習内容の改善・充実

①語彙指導の改善・充実

②情報の扱い方に関する指導の改善・充実

③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

④我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」「言葉の由来や変化」「**書写**」「読書」に関する指導事項

(3) 学習の系統性の重視

(4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

(5) 読書指導の改善・充実

3 書写として

書写のねらい

○文字を正しく整えて速く書くことができること……………【能力】

→**文字の伝達性**を重視し、文字を正確に読みやすく書くことができる。

○書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる……………【態度】

→学習や生活の様々な場面で、積極的に書写の学習の成果を生かそうとする。

※「我が国の伝統文化である書き初めに取り組むなどを通して、書写の能力が生活の中の様々な行事に生きていることを実感することも大切である。」

※書写指導における毛筆と硬筆の関連

毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うことをねらいとしている。

→「**硬筆による書写の能力**」が目的、「**毛筆を使用する書写の指導**」は手段。

毛筆で書く文字の大きさや

毛筆の弾力性や柔軟性という特質を生かして身に付けさせること

・字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方、筆脈を意識した点画のつながり

・行書特有の筆脈の連続や運筆のリズム

→これらを毛筆という手段を使って理解させることが硬筆に生きる。

【第1学年】 20時間

2 内容 [知識及び技能]

(3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(7) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

・書こうとする文字の字形を整えること

・紙面全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること

・文字と文字との間の空け方や行の中心の取り方

・行と行の間の空け方

→具体的な方法や効果を理解し、文字を書く場面で使えるようにする。

(4) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

○楷書よりも速く書くことのできる行書の基礎的な書き方を身に付けさせる。

(社会生活に役立つ書写の能力(=速く書くこと)を養う)

・行書の基礎的な書き方…点や画の形が丸みを帯びる場合があること

点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること

点や画が連続したり省略されたりする場合があること

筆順が変わる場合があること など

→行書の特徴を理解し、学習や生活の中で使用頻度の高い語句等について書けるようにする。

〔第2学年〕 20時間

2 内容 〔知識及び技能〕

(3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

- ・ 行書の特徴を踏まえて漢字を書くこと
- ・ 行書の特徴に調和した仮名の書き方を理解し、筆脈を意識して書くこと
- ・ 行書の書き方に慣れ、読み手への伝達を意識して効率よく速く書くこと
→書式などを意識し、字形や大きさ、配列などに配慮する。

(イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

- ・ 様々な書式に合わせて、適切な字形や書体や筆記用具で、目的や必要に応じて書くこと
- ・ 読み手や伝える相手を意識し、表現効果や伝達効果などを高めること
→学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、書体や筆記具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫することができるようにする。

〔第3学年〕 10時間

2 内容 〔知識及び技能〕

(3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。

- ・ 文字を手書きすることの意義に気付くこと
- ・ 文字文化に関する認識を形成すること
(文字の成り立ちや歴史的背景, 文字の役割や意義, 表現と効果, 用具・用材と書き方の関係)
- ・ 主体的な文字の使い手になるきっかけを持つこと (相手意識と目的意識)
- ・ 文字の芸術性に関心を向ける素地を養うこと (高等学校芸術科書道への接続)
→手書き文字をはじめとする, 活字やイラスト文字, デザイン文字など多様な書体や字形の文字があることを通して文字文化の豊かさに触れさせる。

○文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くこと

- ・ 身に付けてきた書写の能力を総合的に発揮すること
〈1年生〉字形を正しく整える能力, 配列などを整える能力, 速く書く能力
〈2年生〉速く書く能力, 楷書や行書を使い分ける能力
書体や筆記具を選択する能力
→表現の効果を考えながら文字を書くことができるようにする。